

解答

問1	1	音	2	座	3	下手	4	積極	5	満
問2	6	目指(差)	7	不評	8	降	9	看板	10	筋
問3	11	映	12	効果	13	浴	14	犯罪	15	報告
問4	A 鼻	B 首	C 口							
問5	エ									
問6										
問7										
問8										
問9	オ									
問10	ア									
問11	エ									
問12										
問13	イ									

たのは宇宙人のせいだと考えるのが合理的だから。

とにかくおとなしくて目立たない子ども

「テレビの真似はよくない」という坂口の発言で、「宇宙西遊記」の案が退けられたこと。

自分で創った不思議体験だが、その興奮を早く誰かに伝えたいという気持ち。

以前から僕らの冒険・探検話が大好きで、小さなことにも驚き、感動し、それをみんなに言つて回る癖があるマサトに幽霊話をすればクラス中に広がるだろうと思つたから。

解説

出典は、高野秀行「またやぶけの夕焼け」（集英社）。

問1 慣用句・慣用表現の問題は、語句の意味・用法の問題（問10）とともに頻出です。

□補充形式ですから、前

後の場面・文脈をしつかり理解したうえで推理します。A 「宇宙人がうちに来ている」と主張する僕を母は半ばバカにして相手にしていません。「鼻で笑う」＝相手をばかにして笑うようす。「鼻であしらう」（相手のことを軽くみていいかげんにあつかう）とともに覚えておきましょう。B 僕の幽霊話を疑い、「おかしい」という齊藤にクラスの連中も同意し「首をひねり出した（納得しかねて思案する）」という場面です。C 幽霊話はどんどん疑われ、追いつめられた僕は「口を尖らせ」て不満な気持ちを表しています。

問2 僕はその頃二冊の本の影響を受けていました。『世界の不思議』とシャーロック・ホームズ（イギリスの小説家コナン＝ドイルの推理小説の主人公、またそのシリーズ）。自分の消しゴムに波型の切れ込みが入っているのに気づいた僕は、「世界には現代の科学でも解明できない謎がたくさんある」という本を読んでいたから、僕の消しゴムも

そうじゃないかと考え」ます（2ページ10～14行め）一方、ホームズからは「観察と理屈」「よく見て、いちばん理屈に合う答えを探す」ことを学んでいました。「物置にしまつておいたカラーボールにも同じ波型の切れ込みを見つけた」僕は「現代の科学で説明できないものが、たまたま二つ僕のところにあるわけがない」と考え、「宇宙人がうちに来ている」というのが「合理的な答え」であると結論したのです（2ページ15行め～3ページ3行め）。その時点で僕が影響を受けていた二つの考え方を組み合わせて導いた結論だったことがわかるようになります。

問3 「合理的な答えはただ一つ。／『宇宙人がうちに来ている』——すごいことだとばかりに母に告げると「あつさり片づけ」られ、反論しても鼻で笑われ、「グーの音も出ない（すっかり言い負かされてひとことも言えない）」面白くない気持ちでいる時に弟が「僕もね、この前UFO見たよ」と話し始めました。自分の「宇宙人の仕業」説が母に相手にされなかつた不満、どうせ弟のUFO話も相手にされるわけがないのに、というところから生まれた「イライラ」と考えてよいでしょう（→ウ）。ア「弟の話をお母さんが本気で信じているようなので」→弟の話に母がまともに応対するのは4ページに入つてからです。イ「宇宙人の仕業」説を唱える僕です。UFOの話を「わかりきつたウソの話」と否定するでしょか。エ「前半はいいとしても「腹立ちまぎれに弟を言い負かしてやろう」が×。オ「自分よりも不思議な体験！驚きと嫉妬」が×。

問5 「以来」と思われるようになった」という表現から、直前に「ちょっと変わったやつ」と思われるようになったエピソードが書かれているだろうと推理することはできます。「鉄橋復しゅう事件」の話をさかのぼります。4ページ16行め「それが四年生になつて変わつた」この表現より前に「変わる」前の僕について書かれていることが予測できます。4ページ12行め「三年生まで、僕はとにかくおとなしくて目立たない子どもだった」同ページ14行め「クラスの友だちからも、いい意味でも悪い意味でも注目されることはなかつた」も内容的にはよさそうですが、「二十字以内」という条件でうまく切り取ることができます。

問6 「命取り」の辞書的な意味は、①病気など、死の直接または間接の原因となるもの。②地理・名声・財産など人の大事なものを失わせる原因となるものやことがら。ここでは②の意味で使われています。まずは——線部中の「それ」が指す内容から確認しましょう。——線部直前の「テレビの真似はよくないと思います」という、女子の委員である坂口の発言を指しています。この坂口の発言が原因で「死んでしまつた」のは何か? 6ページ5行め「内容から、文化祭で『宇宙西遊記』という劇をやろうという僕の提案が退けられたことをこのように表現したのだ」ということが読み取れます。

問7 6ページ14行めから描かれている下校の途中、「こぐり」と呼ばれている場所で車のヘッドライトに白いほんやりしたもののが浮かんできたような気がします。「白っぽいもの」では面白くないと考え、白いコートを着た女人人が車が通り過ぎた直後、すっと消えてしまつたことにしようと「幽霊話」を創作してしまいます。そして——線部直前、「そつ自分に言い聞かせると、なんだか本当に女人を見たような気がしてきました。ついに僕も不思議体験だ。怖いよう、ワクワクするようなこの気分を誰かに伝えたい」と「思わず、走り出してい」ますから、早く伝えたい、といふような気持ちを表す一言をつけ加えるとよいでしょう。

問8 ——線部直後に「『え、あそこで? ホントかよ!』と興奮していた。／『おい、阪野がさ、すげえもん、見たつてよ!』とクラス中にふれまわることが「想像」できたのは、なぜか? マサトと僕の関係やマサト自身のことが述べられて、いるところはないか? ——5ページ7～14行め「僕の冒険や探検を大げさに言いふらすやつもいた。マサトだ。ハ幡様に一緒にノコを捕りに行ってから、マサトとは仲良しになつて、いた」「どこか素朴で、ちょっとしたことにして驚いたり感動したりして、しかもそれをみんなに言つて回る癖があつた。／マサトは僕らの冒険・探検話が大好きでとまわりの子に話して聞かせるのだった」とあります。今までの経験からも、マサトに話せば自分の「不思議体験」の幽霊話も一気にクラスに広まるだろうと予想し、そのとおりになつたのです。

問9 僕の幽霊話を疑う級友も現れ、いつたんは否定的な扱いを受けますが、「昔あそこで若い人が交通事故で亡くなつた」という長谷川真理の発言で、一挙に形勢逆転、幽霊話はクラス中に、さらに他のクラスにまで広まります(9ページ6行)。「何回も何度も繰り返し話しているうちに、自分がそれを見たことを確信するようになつてきました。その女人人が着ていたコートの縫い目まではっきり目に浮かぶのだ」(9ページ17・18行め)。しかしそれはやはり根拠のない嘘——「阪野、ウソ言つてんじやねえ」と疑われると、一瞬にして話の核心である女人のイメージがあやしくなつてしまつことを「ばわつとかすむ」と表現しています(→オ)。ア「周囲に自分の話をなかなかわかつてもらえず」→クラスから他のクラスへと幽霊話は広がつて、いる状況ですから×。イ「女人の服装まではつきり覚えていないこと」に限定している点が×。ウ「怖いと思わなかつた」ことは「不思議体験」そのものが嘘であることの理由(8ページ4～7行め)ですから×。エ「女人を見た時の恐怖が一気によみがえつて」が、8ページ4～7行めの内容からも×。

問10 「氣色ばむ」の辞書的な意味は、「怒りを表情や態度に表す」「むつと急に心の中にいかりを感じるようす」(→ア)。イ「大声を出す」× ウ「やけになる」× エ・オは場面状況にあてはまりません。

問11 人一倍怖がりである自分が、「怖くない」ということは、今回の幽霊話はやはり「ほんとうじやない(嘘)」と僕は気づいてしまいます。自分がウソをついていると自覚させられることがいやで通学路の「こぐり」を一人のときは避け、遠回りして家に帰るようになりました。ところが、それを見た者が「阪野はあの幽霊の場所が怖くて、一人のときはすごく遠回りしてて」とみんなに話す、幽霊話はますます「本物っぽく」なつてしまつます。そして、——線部、幽霊話を「思い出したくないんだ」と正直に言うと「それもまた同じ結果になつた」「こぐり」を避けて遠回りして帰るのを見られたために幽霊話が「本物っぽく」なつたのと同様、幽霊話を僕が避けねば避けるほど、幽霊話は本当だとみんなが思うようになつた——以上の内容に合致するものを選びます(→エ)。ア「ウソをついたことを遠回しに伝えようと」× イ「『こぐり』で体験した恐ろしさから」× ウ「カツチヤンだつたら、と考えるのはいい」ページ4～7行め。場面が異なります。オ「周りの子どもはウソがばれそうで苦しんでいる『僕』を困らせよう」×。

問12

「弁天様が白い蛇になつて現れ、池の中を泳いでいく」という物語を読んで、何ヶ月か前に「目撃した」とを思い出します（11ページ9行め）。「僕はすごいものを見てしまつたのだ。興奮して、誰かに話したくなつた。でも、この前、幽霊を見たとデマを流して、先生に注意されたばかりだ。」結局、学校では誰にも言わなかつた。カツチャンにも言えない。幽霊話の件でどこか後ろめたかった」（11ページ19行め）12ページ1行め）「しかたなく、お母さんに言つてみたが、う笑われただけだつた。」どうしてこうなるんだ！」——思ひどおりにならないいらだち——見もしなかつたウソの幽霊話は、ブームになるほどみんなが信じたのに、本当に目撃した弁天様の化身の話は誰にも話せない、誰にも信じてもらえない」「しかたなく」弟に「あれは絶対に弁天様の化身だつたんだ」と強く言います。「どうしてこうなるんだ！」の一言に表れた僕のいらだちの理由をおさえましょう。「しかたなく」がくりかえされて、います。積極的な行動ではない点にも注意が必要です。

問13

カツチャン軍団やカツチャンについて述べられている部分・表現を基準に、選択肢の内容を検討します。「カツチャン軍団でも学校でも『不思議な話』が流行つていた」（2ページ・2行め）と始まり、4ページ12行め～5ページ16行めでは、「カツチャン軍団に参加し、妙な活動を繰り広げる中で僕が大きく変わつたことが述べられています。幽霊話の発端では、「僕は、カツチャンならどうするだろうと思つた。最近、僕の行動の基準はカツチャンである。」カツチャンは無理でも自分のやりたいことを押し通す。『面白ければいいんだ』と言うにがいな」とカツチャンのことを考えています（7ページ10～12行め）。しかし、幽霊話がブームになり、先生から「デマ」という注意を受けた直後、「うカツチャンは同じ無理をするにしても、自分が信じていないことは言わないし、やらない」カツチャン本人は心の底から信じてやつている。ウソとか何かをする『ふり』はカツチャンが最も嫌うものだ。カツチャンは僕がウソをついたと知つたら、軽蔑するだろうな……」と思ひ返しています（11ページ～5行め）。（→イ）ア「う考えすぎたあまり、う自分には手の届かない存在だと思う」×ウ「う気に入られようとがんばつっていたがうカツチャンの怖さにおびえるようになつた」×エ「う寂しさがつのり、カツチャンの薄情さを痛感する」×オ「カツチャンには『僕』のすることを全く認めてもらえないかつたため、カツチャンを身勝手な人物だと思うようになつた」×